

令和8年度第1回住吉区区政会議での意見等一覧

○協議事項

・令和7年度住吉区運営方針の振り返りについて

No.	項目	意見等の内容	当日の回答	今後の対応方針・事後回答
1	経営課題 3について	（一瀬委員） 「3-2 こどもと若者の支援」について伺います。学校のスクリーニング会議に出席した際、いじめ等の事案において「誰にも相談できなかった」子どもが、全75件中15件あったと伺い、大変衝撃を受けました。そのことを踏まえ、本施策および総合教育会議のお話を伺う中で、子育て相談室等、保護者を含む大人の視点での相談体制は比較的充実しているように感じた一方、子どもが「困った」と感じたときに、子ども自身が直接相談できる窓口や支援への導線が、どのように確保されているのかが気になりました。これを学校の対応に委ねるだけでは、保護者との調整等も含め負担が大きくなり、個別判断を丁寧に行う必要があることも理解しています。 なお、スクリーニング会議を通じて、学校と区役所の連携が非常に良好であることは強く感じており、この点は大変評価しています。そのうえで、区政会議としての振り返り・ブラッシュアップの観点から、子ども本人に対するアプローチをより明確にする必要があるのではないかと考えました。	（山尾保健こども家庭課長） 委員ご指摘の「子どもが直接相談・アプローチできる仕組み」については、現時点では該当する事業はありません。 一方、「こどもサポートネット」では、子どもの異変に最も早く気づきやすい立場にあるのは学校教職員であるという考え方のもと、支援につなげる体制を構築しています。例えば、1学期までは問題なく登校していた児童生徒の登校状況に変化が見られる、衣服の汚れが目立つ、忘れ物が増えるなど、日常の小さな変化を教職員が把握し、対応が必要と判断した場合に、学校内で課題を共有します。 また、教職員は福祉施策に関する知識が十分でない場合もあるため、スクリーニング会議において情報を共有していただき、区役所が当該情報を把握します。区役所側はスクールソーシャルワーカーおよび推進員が会議に参加しており、特に推進員が福祉分野の知見を踏まえて、必要な支援制度や施策へつなぐ役割を担っています。 今後も、こどもサポートネットのネットワークを活用し、適切な支援につなげる取組を進めてまいります。	
2	経営課題 3について	（栗野委員） 不登校が小学校で増加していることは事実であり、保護者の中には「無理に学校へ行かせなくてもよい」と考える方も増えているように感じます。実際、学校が家庭訪問等で登校を促そうとしても、「来られると子どもの機嫌が悪くなるので来ないでほしい」といった反応があるケースもあると伺っています。小学校・中学校段階では、学校側のフォローが比較的手厚いという印象があります。私の周囲でも、フリースクールに通う方や、不登校生徒向けの中学校等を利用して出席扱いとなり、その後の高校進学につなげている例があります。一方で、高校へ進学した途端に支援が途切れる、あるいは薄くなるように感じています。中学校まではフリースクール等で楽しく通えていたものの、高校になると再び通学が難しくなるという話も聞いています。義務教育ではなくなることも影響し、支援の対象把握や継続支援が難しくなる面は理解しますが、高校生の時期は社会に出る前段階として特に重要です。 つきましては、高校生の不登校・ひきこもりの子どもに対しても、支援の情報提供や相談・伴走など、もう少し手を差し伸べる取組を充実していただければと思います。	（稲岡福祉課長） 子ども・若者育成支援事業については、若者を対象とする事業であることから、対象年齢は小学生・中学生を含む概ね39歳までとしております。小学校・中学校の段階からご相談いただき、その後、高校年代まで継続して相談が続くケースもございます。また、保護者からの各種ご相談も受け付けております。 委員ご指摘のとおり、中学校卒業までは支援がある一方で、高校年代以降の支援について不安を抱える方もおられますが、そういった場合には、本事業をご活用いただきたいと考えております。	

No.	項目	意見等の内容	当日の回答	今後の対応方針・事後回答
3	経営課題4について	(藤見委員) 区役所庁舎を訪れるたびに感じるのですが、接遇対応中であればやむを得ないとしても、来庁者と目が合っても「おはようございます」「こんにちは」といった挨拶がほとんどなく、声かけがない状況です。挨拶を徹底するだけでも、来庁者の印象や満足度は大きく改善されるのではないかと考えます。 地域の活性化に関しても、まず町内会で挨拶から始めようということを提案し、実践してきました。挨拶は地域・組織の雰囲気を変える基本であり、区役所においても同様に重要だと思います。 例えば私自身、市営住宅でエレベーターで会うたびに挨拶をしています。相手が会釈されても、声に出した挨拶が返ってこないことが多くあります。こうした点も含め、挨拶を「声に出して交わす」ことを組織として意識し徹底すれば、評価の向上にもつながると考えます。 ぜひ、来庁者への挨拶・声かけの徹底を具体的に実行していただきますようお願いします。	(小林総務課長) 格付け調査においては、挨拶や話し方、身だしなみ、態度等も評価項目に含まれており、評価点に反映される仕組みとなっております。 住吉区の総合得点は5点満点中4点である一方、挨拶に関する評価は3.7点となっております、総合得点を下回っております。 このため、今後、職員に対して接遇研修等も含め、挨拶をはじめとする接遇の徹底について、より一層周知・指導してまいります。	